

中国の大軍事パレード／沖縄を平和のシンボルの島に

中国北京の天安門広場で去る9月3日、大軍事パレードが行われました。中華人民共和国建国70周年の式典でした。任務が異なる部隊がそれぞれ異なる軍服姿で、一糸乱れず整然と行進して行きます。りりしい女性兵士の行進は、ひときわ目立ち、実に見事でした。続いて機動部隊の行進です。轟音をとどろかせる戦車隊の後に、大型ミサイルを積んだ車両が幾台となく続きます。このミサイルは中国本土からグワム島まで届くそうです。強大な軍事力に圧倒されてしまいました。どうしてこのような軍事パレードを行うのでしょうか。

パレードが終わると天安門の楼上から、左右に第四代江沢民主席、第5代胡錦濤主席が並ぶ中央に立って、第6代習近平国家主席が演説をしました。「中華民族の若者は、不撓不屈(ふとうふくつ)の精神で奮闘し、日本帝国主義の侵略者を負かし、世界の反ファシズム戦争勝利に大きく貢献し、中華民族5000年の文明を守った。

中華民族は一貫して平和を愛しており、発展がどこまで至ろうとも、中国は永遠に近隣諸国にまで支配を及ぼす覇権を唱えないし、領土を拡張しない」と宣言しています。

日本のマスコミは、「巨額費用の愚、壮大な無駄遣い。2億人の貧困撲滅に投ずるべきだ。権力者が自らの権力を誇示するための金は、過去の誰よりも高額になる。そして市民が過大な負担を強いられる。兵力30万人削減といっても、依然として200万人の大兵力だ。」と切り捨てていました。確かに習主席が、自分の政権の強固さを内外に誇示して、国民の信頼を得、自分の政策を実行しやすくする意図が、十分にあったことでしょう。

でも私はあらためて世界地図を開いてみました。中国はソ連邦に次いで世界第2位の広大な国土を有し、20ヶ国以上と国境を接しています。人口は13億5千万人、しかし実数は15億人(世界1位)だろうと言われています。そして軍隊230万人。日本は海に囲まれていてどの国とも国境を接していません。人口1.3億人で25万人の自衛隊。人口の割合からいっても日本より少ない位です。

それに先の15年戦争で、日本軍によって1000万人の中国人が殺されたのです。私が10年暮したシンガポールでは4万人の中国人が殺されましたが、その心の傷は戦後50年たっても鮮明に残っていました。中国本土の人々の日本人に対する深い恨みと警戒心を、私たちは忘れてはなりません。

沖縄を平和のシンボルの島に

沖縄の翁長知事が普天間基地の辺野古移転建設に強く反対して、政府との話し合いも決裂。彼は国連の人権委員会にも出向いて、沖縄県民の思いを訴えました。普天間飛行場が町の真ん中にあり、事故が起こり危険極まりないので、1990年に基地の全面返還が日米で合意されていました。しかし移転先がなかなか決まりません。やっと2006年になって辺野古に新基地設置で合意されました。そして2013年に仲井知事が、辺野古海岸の埋め立てを承認しました。

しかしいざ決定となるや、新基地建設反対の世論が沖縄全島民の間に強く湧き上がり、それまでやむなく承認して来た政治家たちも反対の旗色を明らかにし始めました。そして2014年12月の衆議院選挙では、4選挙区とも反対議員が当選。県知事選挙も自民党の県幹事長だった翁長雄志氏が当選したのです。

沖縄も敗戦3か月前に、米軍大部隊が上陸し、激しい地上戦に巻き込まれて一般市民が94000人も死にました。そして米軍の占領・統治下に置かれ、戦後27年もたつ1972年に、やっと日本に返還されたのです。しかも依然として安全保障条約のもとで米軍基地の島として、米軍の要求には、全て従わざるを得ない地位に置かれています。ですから翁長知事は「沖縄県民の自由・平等・人権・民主主義を守ることが、日本政府の責任ではないか」と訴えたのです。これに対する政府の回答は「日本の国家安全保障は最優先の課題だ」でした。

私はこう考えます。私たちの憲法はその前文で「日本国民は恒久平和を念願し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と述べています。国家の安全保障を軍備と基地に頼るのではなく、諸国民の公正と信義に信頼を置いて守っていく、という決意です。

普天間基地の町、宜野湾市の伊波元市長もこう言っています。「備えあれば憂いあり、軍備が戦場を引き寄せる。宜野湾は普天間基地があるから危険なのだ」。本当にそうではないでしょうか。中国の習主席でも「中国は一貫して平和を愛しており、永遠に覇権を唱えないし、永遠に領土を拡張しない。中国は今後軍隊の人員を30万削減する」と言明しています。私たちはその信義に信頼して、沖縄県民の意志通りに、中国に一番近い全沖縄から、基地を無くす決断をすべきではないでしょうか。

「中国は一貫して平和を愛する」という信義に信頼して、沖縄を基地のない島、平和のシンボルにしていくために、日米安保条約を日米平和条約に変えていく働きかけをしていきましょう。